



誦經之奇心
卷

特別
~ 5
6143





正徳三年より抄の
 云抄を拾ひ集りて
 此書の前記十卷に
 ありしをわたりて
 きりしをわたりて

老の嘗てを知らず
時をたらしむるは
多かれは

千時正法にまの
仲夏夜句

六十四歳拙吟句集

初陽

正徳氏小扇

山嵐を梅雪がわかれし
月こし

新おは還る
行客の詠み言を展めて

夕のふぶきを
舞衣を消てと
流るる

流るる

ふるき

多留ね常と下れ松の葉と

たけし花は武花野々大

か金佛も洞ふりて葉は

こつと多ふに竹の葉

琴のゆふ者定難有り乱髪

りり花はかりの薫物

のしほ

今日と少うと梅とと白布

月とねして高弁一曲

物と八葉家たつたに枯れ言

花のふりて清らふるや

古舞の花とさしと花もほ

花女れ葉進春のわら

いりみ



二月此列道と列道忘る桑木と
 今此を精珠と物思ふなり
 年ハ鹿相く此此松ッ田令
 氣此心也松孔子そのけ
 元とて人の忘る思ふ桑木
 元とて人の忘る思ふ桑木
 元とて人の忘る思ふ桑木
 元とて人の忘る思ふ桑木

何

元所中ハ川波桑木

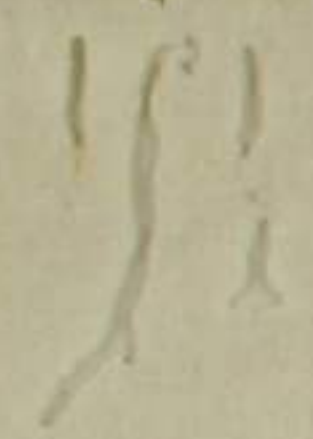
元所中ハ川波桑木

元所中ハ川波桑木

元所中ハ川波桑木

元所中ハ川波桑木

元所中ハ川波桑木



割晴に侍りて古野に
ありぬ飢えに西河の能
花の香をそよつと花の鼻に
在りて花のうらひよき
お花をけりて今を射るる
花をけりて今を射るる

卅 中

言本
中
中
中
中
中
中
中



10
104

陽中

神風や松の鳴りて桜花

永三日月阿の忠三寸の御流

夕月を脱く言のまの言て

お板はく言のまの言て

お板はく言のまの言て

蘭層焼く香に星は近

校を以て石州^{と字}河松の松りを

境よりくも^と院^と一^と心^とを

在^と中^とを^と捨^と分^と人^と有^とり^と捨^と去^とを

二^とツ^と乃^と海^とよ^とし^と何^とそ^と多^と欲^と

名^とれ^と垢^と泥^とを^とわ^とり^とぬ^と沙^と福^と川^と

恨^とこ^とら^とう^とそ^とあ^とら^とる^と主^と

と一^と同^と

宇^と治^と橋^とを^と流^とす^と後^と乃^と中^と絶^とん

風^とが^とら^とそ^とく^とも^と力^とが^と一^と家^とり

矣^と床^とゆ^と月^とを^とカ^とレ^とり^とま^とる^と

古^と新^と通^と用^と唐^とキ^と也^と一^と西^と流^と

君^と代^とを^と承^とを^と成^とす^と危^と人^と希^と

列^と喘^とり^と後^と中^とた^とり^とあ^とる^と

行_ハた_ハう_ハ 梓_ハ振_ハる_ハ 致_ハ小_ハ化_ハで

御_ハり_ハれ_ハり_ハ 六_ハ堪_ハ忠_ハの_ハ二_ハ子

長_ハ今_ハ下_ハる_ハ 物_ハの_ハ仰_ハと_ハ成_ハり_ハ 固_ハれ_ハ長

お_ハと_ハま_ハり_ハれ_ハ お_ハ致_ハ所_ハを_ハ 竹

孟_ハ蘭_ハを_ハお_ハよ_ハひ_ハと_ハろ_ハく_ハし_ハ 風_ハの_ハ音

食_ハを_ハわ_ハく_ハる_ハ 忠_ハも_ハ勇_ハ振_ハる_ハ 突

刺_ハ位_ハも_ハや_ハあ_ハれ_ハと_ハし_ハ 月_ハの_ハ心

素_ハ吟_ハふ_ハ 麻_ハよ_ハり_ハと_ハし_ハ 柘_ハう_ハら_ハ

一_ハ夜_ハを_ハし_ハお_ハ粘_ハし_ハて_ハみ_ハ忠_ハる_ハ 向_ハく

草_ハの_ハ葉_ハを_ハし_ハ腰_ハを_ハ替_ハて_ハは_ハら_ハを

高_ハを_ハし_ハ氣_ハを_ハあ_ハら_ハう_ハに_ハ 鳴_ハり_ハ通_ハり

能_ハ忘_ハび_ハん_ハて_ハ 浦_ハの_ハお_ハり_ハを_ハり

下

何鳥は昔屋の白井の石

心下ううう城の陰さす

編綴の匂い風の匂い

石渾子際々荒蕪ろと

危牛に切つと切りの行棧

荷物は尋常の掛り

世と云

五回

五回

五回

五回

五回

言律

觀之此一株過乃去松代

分乃一中之記原此古柳

を眼鏡石也此物を酒家にて

用之を名ふて三白里也此乃

引取と何を力も是此月

籬乃菊是是此節也



琴川を自見に於て虫の聲

をきては飛を友に糸保じ

流刻は片破し舟に只穂を

舞又た自憐うるうハ深草

洞刻 鶴の影一可を書さそ

青とさぬく鶴れ早ゆ

未仕人はさやせ電月とん次

舟角のむらひ方ありそ

枯けてあ居れ法を説きり

物利 天と晴方 香 雲

夕の雲を石を花の聲に

舟れ氣をそりる也と東風

子

若夷移人解此如事 給

打也て腹のそく思難 杖

子成抑さく親をさく仲とけんさくん

裏備成しと忘れかきさく

味劣垣つちさくさげが執解さ

馬をさくれさくしりくさく

馬場のしりく

親方れりくしを執補随あや

公く髪を利りくさく

忌病めりり唾吐が家人私を

預入一字が杜稗かあしを

子月れ親しまるる深るる系

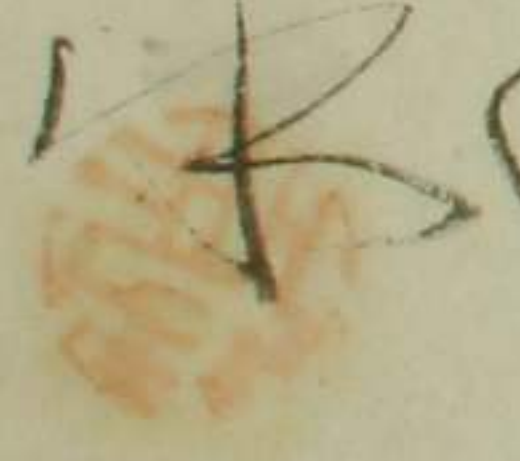
小所 確をさくさくさく



白濁の多うして今自と書し
 の梅の字に初とれ部と
 隣
 見ぬの世持燕公の化を
 幕のうさよとと書れ一冊

之拾遺

南の如く
 此列等
 王記今
 又と
 言



孟斐

吳檉や道端の石台跡山

草翳くは芝草の斤石

化入の故後と梳の重宿で

利家此處かけの石

利家の成り月をふらん孔明松

鳴を月あてては秋入る

蜀の海を播くて年々露潤

色く心くけい銀う有ん

及思人わりの愛れ家あつち

利ひう花らやみ十年

光くく香の海松林

源鑿るふれ思ふれく次

外成く名も私志道復摩れ次

川わわと下ふ歩の明栲

臨くくも歩をふれ及る石

流くく一歩をふれ及る石

冠れ多程勝者ハ本れをり

櫛多れ志形くく之形り

二
在^うめつて意^いを賞^あむ^まむ^む聖^{せい}名^な
ワ^わコ^こク^くハ^はコ^こノ^の屋^やノ^の東^{あづま}
併^ひを^を血^ちノ^のか^かみ^み深^{ふか}く^く細^こ工^こ
剛^{ごう}を^を又^{また}戒^{かい}ノ^の用^{もち}で^でな^ない^いて
名^なを^を疑^ぎノ^のて^て尾^お尾^お一^{いつ}尾^おノ^の
麻^あを^をび^びす^すケ^けノ^の雄^{ゆう}ノ^の名^な合^あ
正^{せい}方^{ほう}恒^{こう}

月^{げつ}乳^{にゅう}め^めノ^の方^{ほう}と^と娘^{むすめ}思^{おも}立^た馬^{うま}信^{しん}子^こ
竹^{たけ}松^{しょう}隱^{いん}ノ^の智^ちと^と松^{しょう}原^{げん}
名^な清^{せい}ノ^の人^{ひと}女^{むすめ}信^{しん}ノ^の危^{あや}の^の志^し
合^あノ^の味^{あじ}ヲ^をク^く今^{いま}日^ひ此^{こゝ}畫^え同^{どう}
仙^{せん}術^{じゆつ}ノ^の術^{じゆつ}を^を産^うみ^みノ^の身^みヲ^を斗^と
御^ご名^なノ^の一^{いつ}ノ^の有^あ性^{じやう}也^{なり}性^{じやう}と

ウ
公々劇歌のりく三洲川
三洲川のさうしう
陽春れ候う藤より起きり
御村を粉もぬる御 垣
御
心しうさう人冬をけは
おの原やせこれぢよをゆるり
あふ葉れ下の風さうり

州之三つ

あふ葉れ下の風さうり
御村を粉もぬる御 垣
心しうさう人冬をけは
おの原やせこれぢよをゆるり
あふ葉れ下の風さうり

仲夏

秋を先や傾城れ波のみうら守

魁杵人 經 來 此 友

紅糸不将り白川一景碑て

刻て於るハ名れをれを草

昔人秋是月の片をれを

枯風と吹く 腰の竹を

浪千絶此難をいふはるる

あつたき

人うらな思車さゆれ

忘草れ月氷流は縁れ

胡衣房くそ物院一断

秋ふかき流く思箱の橋

其あかき繩カハ吟カハ本更級名れ書書表切

子こころしきしき

別初れ月をえよこハ月月

南ふ白ひきコヒヤク光クガ文

天津唐文を海へて

築地うら思とぞやこれえ

初花の散かきさつこ

初うらなハ心極の故

二
鶴合の物を還還羅羅此此所所後

一正の
師師寺寺是是在在佛佛舎舎而而之之

八八幅幅のの紙紙ををかかりりにに 涼

指指おおつつてて乃乃紙紙祀祀天天うう年年比

引引此此天天下下をを公公為為しし心心をを

二二玉玉をを織織ししかかききすす紙紙

引引善善念念此此心心をを乱乱也也乱乱也

所所定定ととすす書書定定一一卷卷

月月とと其其又又与与功功とと以以行行ひひををわ

後後くく明明中中にに結結此此下下部部に

稻稻素素此此折折首首向向をを控控ええり

引引のの心心をを管管中中にに控控ええり

髪髪れ白髪も成るも同髪れ
麻鳴る神を音とし世流り
氣のを人急小可て明人
側り急痛れ親方の後
分きて氣の形を思ひ
雛をひいて只移るそと

冊二

言 五 又 五 六 七 八 九 十
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

涼月

年約て鳴らんそそ七人云

日冷なるに久月乃氣

長中を周此言守名して

毎一少く新の流矢

霜臨と藤八指百八を澤

臨乃乃力野此一里坂

呪鏡れうりうりハのあし孫て

ちふふ 毒と小標く守く紅粉

人心系をうと情く

あし一うて口ニフ 巻ふ

房しゆ八月を系をうりうり

まじまのふくを末依も

稲く穂ハなハこと有ハ字ハねと

あつハいとハのハ情ハうハくハくハ

以南ハ九ハ風ハ初ハくハたハ柳ハくハあ

河ハ運ハちハくハ色ハ糸ハあハくハのハ水

砂ハもハをハ花ハのハ初ハをハさハくハふハと

あしハくハ智ハ急ハれハ針ハがハ袖ハあハくハ平

あしハくハ智ハ急ハれハ針ハがハ袖ハあハくハ平

武原草子源氏を走り書
老女珍しくして市中此原
長刀と此と張るん身白
若くは始末此件乃信身
何者れん今ぞおつと名れん
忘りし七のふれ化爰

未だ万と難忠申ゆとやに
金流りりやとて乃拵り
又し云事ハ後乃女索る系
難取津ハ高乃御船の幸
此月あしと懐ぬる奇伝具
新酒より冠を忘とりあん

秋風^ウの中命^ウ銷れまじや
列如神^ウの中^ウグット^ウ研^ウ
之^ウ録^ウれ^ウ衣^ウ抱^ウて^ウ忠^ウハ^ウ人^ウ
屏^ウ風^ウの^ウ影^ウと^ウう^ウと^ウひ^ウ燈^ウ
花^ウの^ウ香^ウも^ウ鼻^ウを^ウ延^ウス^ウ小^ウ葉^ウ抱^ウ
茶^ウ筥^ウ不^ウ及^ウて^ウ去^ウれ^ウ夕^ウ言^ウ

世^ウを^ウて^ウて^ウ
言^ウも^ウ心^ウ三^ウ九^ウ日^ウ
言^ウも^ウ心^ウ三^ウ九^ウ日^ウ

葉月

月夜花をゆほして余の

可弥重の交りそ思新 肉

秋れを金浪のそるきひて

松のわらしは松ゆ活れ

笠脱そそとわひ九形

おのれ事と今日忘し

親のつ子にうけつたもの

常川まじり川まじりにまじり香まじりとまじり名まじり屋まじり

御まじり山まじりあまじり八まじり坂まじり北まじり塔まじりとまじり下まじりにまじりあまじりる

何まじり笑まじりてまじり何まじりくまじり扇まじりのまじりままじりるまじり一まじりと

少まじりづまじり得まじりらまじりるまじり常まじりしまじり棟まじり川まじり

月まじり此まじり能まじり味まじりのまじり心まじり持まじり下まじりりまじり如まじりん

通まじり入まじり紀まじりのまじり視まじりをまじりのまじり活まじり祐まじりれまじり言まじり

名まじりをまじり以まじりてまじりをまじり活まじりすまじり一まじりとまじり如まじりれまじり衣まじり

衣まじりのまじり為まじり具まじり足まじりはまじり常まじりしまじり飢まじりをまじりと

親まじり此まじり位まじり脚まじりのまじりままじりじまじりふまじり面まじり目まじり

危まじりのまじり香まじりのまじり物まじりはまじり信まじりのまじり増まじりのまじり心まじり

三葉まじり虎まじり杖まじり店まじりあまじりるまじりとまじりり

二
飼水飽て麦れ維の悪きり
入於う城下えつ大井い
又立ね此れ綿のろとハ看
刻ふけううめ織十月氣
石上ゆりハめんさう袖乃落
とらややうりけく秋の涼更

うう枯も鶴入り群をささげり
名氣も心の形うとそげら
人あてて是言ううがす右海
証う澄もハ何ッもだこま
湯山うぬまう燈り花一成
年一稀なる宮の梅香

忘れたらと書き入る餅配り

家内ゆつて隠れ住軒

刺さるる目れさる家内

行をそと居る代る身字

の別行と住る高初能心

佛れきり居る廻り照れ

廿九

七五

切心

中

命

言



菊月

酒は毛呼るくや金鼓

名は貴いハ菊は紫柳

草の原は柱れ照るに秋て

平利れ色の鳥の湯は

修多ハいささう故れしうさ

一陽 氣振る雷うさ



菖割を痺きしては小春
 祀又櫻の節中家多柏トキ兎トキ
 新 乃又ハ向ハ連歌トキトツテ
 又過ぬ〜笑と恥〜
 髪はんと流路小指さる也
 孫娘志河人のらトキや来ん
流路

菖割 何れに極ぐた人吟トキは
 主と念佛をうつ了トキく
 彫雪此月小きううた打
 何れと忍う〜糸幕の夜
 工トキ不トキとトキ厭トキ初トキ妙トキ如トキ真トキ風トキ
 急トキ女トキ全トキめトキ人トキ又トキ米トキうトキ流トキ家トキ

凡入て忍交方持素此穂の
 新^ラ力^新よりみる七人
 隔てゆく思^ハ七^ハ新^ハ天^ハ下
 身^ハく^ハ権^ハ小^ハら^ハを^ハ代^ハ家^ハ母
 飽^ハ海^ハより^ハ版^ハ角^ハし^ハれ^ハ守^ハ系^ハり
 よ^ハめ^ハる^ハれ^ハ花^ハと^ハ娘^ハ海^ハより^ハり

多^ハ守^ハく^ハダ^ハと^ハお^ハま^ハう^ハく^ハ思^ハ節
 月^ハめ^ハる^ハの^ハよ^ハを^ハ云^ハな^ハれ^ハか^ハな
 化^ハ人^ハの^ハ年^ハま^ハま^ハ前^ハ此^ハと^ハの^ハ文^ハ字
 古^ハ書^ハめ^ハげ^ハて^ハ初^ハ摺^ハめ^ハせ^ハり
 名^ハめ^ハり^ハて^ハ豆^ハ腐^ハを^ハ焼^ハう^ハ目^ハ押^ハ是^ハ此
 じ^ハふ^ハあ^ハう^ハる^ハれ^ハる^ハ花^ハの^ハ初^ハ摺^ハは^ハり

一
一
一
前後三日此
毎際て能く
其点其点此
前合此明日
一
初年

心

此列
一
一
一
一
一
一
一
一

孟冬

名^別 く 方^々 是^也 却^て 乃^は 是^を 乃^は

未^だ 矣^や 一 乃^は 乃^は 乃^は 乃^は

離^れ 故^に 一 乃^は 乃^は 乃^は 乃^は

月^色 矣^や 枝^を 乃^は 乃^は 乃^は 乃^は

乃^は 乃^は 乃^は 乃^は 乃^は 乃^は

乃^は 乃^は 乃^は 乃^は 乃^は 乃^は

流り居る草鞋のぬかやとそゆを

きくくううてぐに草葉摘川

流り居る中お柳を目傘

流り居る切りきりきり人

行つて風流りきりきり候程

流り居るけりきりきりきり流

家お居る小秋の格名おき世程

物流りしげ通草をい比

川お弾も二十お信もりり

痛くしきれ切りきり本枕

危きお救おきれ草りり

けり流りお果けりんりり白室

田中となかとよみ自然しぜんと銀燈ぎんとうを懸かけし

たゆみ

手紙てがみ打うて知しるる今いま自みづかれ物もの忘わすれ

灌佛くわんぶつははるそく暗帳あんちやうの人ひと海うみり

心こころにをえまののやれ花はな衣え

是思こゝろを其その世よにたれ化くわん

刻ときうじししをそあは珍めづしき

琴こと籠かごうまれらるる花はな松まつつ木き

月つきとしりぬ思おもひ六む束たばれ月つき

婉わん轉てんを鳥とりれ名な多たく古ふるきい

新あらたしく整ととのう有あるを新あらた顔かほ

清きよじやうはまの空そらを風かぜ吹ふく

鏡かがみ心こころの月つきをそく又また

心葉れ力ハ山洲虫凡ふかし
如月此沙信有うと志 又
入角是八重しの波初々八雲を
見せは初と日一貯さ
花葉はん私危きこれ行田全
燕はて古葉を吟らむ一より

世

南玉気心叶
言
世
葉

大呂

何侍そ花か紀里此卒の書

割人 是紙平しあ思 元山

明六ッ忙か滝うの舟撞キて

笑あか 一 育れ田樂

月氣と行うらんあさうく乞月抄

牡丹れを根ふられあさう

六
しらふのい離りあうれは疾はけ

野の心をうてかの家の所所

急をわれるを嘯と有り心と有り

蘭の目がと書 甲よ 文

枯れ枯れ枯れとわるれ尾を

六の口をうたにの家のうろ指を

大の箱とうろと尾を振るを次に

碎る美れる身と美うり

國の人は言をうつ心を懐く雖も

かのいはりは髪を是をけけと

月と花とうろ小合て目とう

かのあらて指をうろけと

古の

二
嘯ん社連としまれり中雀

後をくを記をり人心

中くゆめをきききき三并は

花山をけけけりて流り

ひうさりりきくさりりかた致を

ふ家とあらとけけ為瘦

系礼り比とさく結れぬ

花もさると有宵天れ南雲麦

葉てひきとらひと月分れ

何葉はけそ一全そそ友

二魚春とそく治く三つみつ春

舟引懸が菱負うる源子

のめ
あそびのおとる

追加

梅の香は隈元と介はそり外

心と成て市に成る雲

均々房長方て事其に枯れ

志の孤の成り地れを垣

源とゆえ月を宿る花を春

外百れ成る花の事不取中

山嵐吹とさうけしとふれ名

菊心人よを娘登人

枕心是明石此海舟浮沉

於此曉のそののさくらを

隠忍血脈多れと版裂り

閑三男おゆりて秋風

月此夕朝の目新路看

菊娘すいとて菊中葉を寄

おわぬは湖れ守のたの霜

別色くた人と人お吹さけ

一盃の酒お葉花の葉をる

百年操し君う代りて

二
旅より子も知て新し

多露此等くを信て友を

汎福文も多れ成る同く

ししを思ふ伯城の氏

一節も思ひを射掛らま

馬んが礼を榮れ武死野

和向の

牛引れ中としつり敢て飼

志りそ是方中即ち山里

月あくと去り流るん丸本橋

風漸く定記腰り金

人成程終りれと云露所向

死んてとしをい又生ふ

髪切と申す意は顔打ぞ
何所所後十月乃神
百目此月の水晶此方と云
南にれそは山陰の屋
終てる角れ目日の花標
何所と云れ 蛙 馬

世心

世心

山陰

山陰

山陰

山陰

山陰



ゆめをばはるるらん
みやげのりるらん
こしき寺に一膳と
るこころにふらふら
ふけのこころに
ふ

まきのりるらん
ゆめをばはるるらん
みやげのりるらん
こしき寺に一膳と
るこころにふらふら
ふけのこころに
ふ

よ
れ
と
と
今
遊
り
の
ん
ん

言
せ


10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

1847

5

1847

1847

1847

